

令和8年度石川県防災総合訓練①



- ・ 災害に備え、**県、市町、防災関係機関と連携し、県民の防災意識の高揚を図る**ために実施
- ・ **今年度の訓練のポイントは、**
 - ① **令和8年熊本地震や8月の中能登地区での大雨時に、課題となった断水や孤立集落の発生等を想定した訓練を実施**
 - ② **実際の災害時の対応に近づけるため、防災資機材等の展示は別会場にて実施**
- ・ **各種訓練を踏まえ、今後の自然災害への対応力強化につなげる**

開催日 10月18日（日）

訓練会場 小松市内

〔 被災現場：木場潟公園中央園地
避難所：小松大谷高等学校 など 〕

参加者 約70機関・約11,000人（地域住民含む）



内容

① 救助訓練

- ① 新 ✓ 実際の災害時を想定し、**要救助人数や場所を事前に明かさず、消防、警察、自衛隊等の実動機関が連携して行う、ブラインド型**の訓練
(水難救助、河川救助、土砂災害救出、倒壊建物救出等)



土砂災害救出訓練

② 孤立集落対策訓練

- ✓ **8月の中能登地区での大雨を踏まえ孤立集落**に、悪路を走行できるバギー車等でアクセスする訓練
- ✓ 孤立の可能性を想定し、**上空から、ドローンで孤立集落の早期発見や安全な避難経路の確認**をする訓練



ドローンによる偵察訓練

③ 断水対策訓練

- ✓ 断水中の火災を想定し、木場潟を水源とした、火災防ぎょ訓練
- 新 ✓ 令和8年熊本地震での断水を踏まえ、避難所での手洗い機等の設置訓練（給水車からの給水、水循環型シャワーの設置等も確認）



水循環型シャワー

水循環型手洗い機

④ その他訓練

- 新 ✓ インバウンドの増加を踏まえ、**外国人**も参加する避難訓練
- 新 ✓ **避難所管理システム**を活用した避難所受付訓練
- ✓ DMAT（医療）、DWAT（福祉）、DPAT（精神医療）による初動対応訓練
- ✓ ヘリコプターを活用したオフロードバイク搬送訓練・重症患者搬送訓練
- ※ 防災資機材等の展示は、イオンモール新小松での防災フェアで実施



避難所受付訓練

令和8年度石川県原子力防災訓練①



- 原子力災害に備え、**国、市町、関係機関及び北陸電力と連携し、防災体制の確立と防災技術の向上、住民の理解促進による不安解消を図る**ために実施
- 今年度の訓練のポイントは、**
 - ① 起こりうるタイムラインを想定し、**複数日にわたる訓練**を初めて実施
 - ② **屋内退避についての理解**や、**屋内退避から広域避難までの実際の流れ**が理解できる**実践的な訓練**を実施
- 訓練結果の検証を踏まえ、今後の原子力防災対策の強化**につなげる

開催日

11月20日（金） 災害発生 ⇒ 対策本部設置
屋内退避開始

11月22日（日） 屋内退避 ⇒ 広域避難
志賀原子力発電所から30km圏内の地域

参加地域

参加者

約240機関・約1,400人



オフサイトセンター現地対策本部

内容

① 屋内退避訓練

- ① 新 ✓ **実際の災害を想定し、複数日にわたるタイムラインに沿った屋内退避を**
住民の皆さんに理解していただく
- ① 新 ✓ **北陸電力の広報車を活用した屋内退避の呼びかけ**

(※) 屋内退避 … 放射性物質の放出の恐れが高くなった際、UPZ（発電所から5～30km圏内）では、放出時の被ばくの低減を図るため、屋内に留まる

② 「避難経路の複線化」を取り入れた訓練

能登半島地震での道路の寸断を踏まえ、

- ✓ **策定予定の新たな避難計画**に基づき、あらかじめ設定した**代替ルートで避難する訓練**
- ✓ 陸路が使用できない場合の空路(ヘリ)、海路(船舶)による避難訓練



広域避難訓練



ヘリコプターによる避難訓練

③ 近年の災害を踏まえた他の訓練

- ✓ 放射線防護施設（要配慮者が屋内退避を行う施設）が損傷したことを踏まえ、原子力防災用エアテントへの避難訓練
- ✓ 放射線量を測定するモニタリングポストが使用できなかったことを踏まえ、モニタリングカーを活用したモニタリング訓練
- ④ 新 ✓ 道路の寸断や**放置車両**を想定し、地元事業者による道路啓開後、陸上自衛隊の高機動車で避難する訓練



原子力防災用エアテント

④ その他訓練

- ✓ 避難する際に放射性物質による表面の汚染の程度を確認する避難退域時検査訓練
- ✓ 要配慮者（社会福祉施設入所者）の避難訓練
- ④ 新 ✓ **県災害対策本部の運営訓練**
- ✓ 国、県、関係市町及び関係機関が参集したオフサイトセンター運営訓練



避難退域時検査訓練

災害時学校支援チーム「D-ESTいしかわ」の発足



- ・養成研修を受講した教職員など**101名で構成**する^{ディーエスト}**災害時学校支援チーム「D-ESTいしかわ」**が**本日（10月7日）発足**

→ D-EST : Disaster Education Support Team

R9年度も引き続き、メンバーを募集し、養成研修を実施。既存メンバーにはスキルアップ研修を実施

- ・**災害時**は要請に応じて**メンバーを派遣**する一方、**平時**は**所属校で防災教育など**を推進

→ 派遣体制：1班3～4名、派遣期間は4日程度

メンバーの構成

101名

内訳	小学校	27	中学校	16	義務教育学校	6
	高等学校	33	特別支援学校	2	教育委員会	17

活動イメージ

災害時（県内外の被災地に派遣）			平時
学校再開	心のケア	避難所協力	防災教育・学校防災
教育活動の早期再開にむけた支援	児童生徒等の心のケアに対する支援	学校における避難所運営の支援	所属校の防災教育や学校防災の取り組みへの助言

※令和6年能登半島地震の際、「災害時学校支援チーム」が発災直後から被災地支援を展開した結果、学校の早期再開が実現したことを踏まえ、体制を整備

のと里山ポケモン・ウィズ・ユー空港「空の日フェスティバル」



・空港の魅力を伝え、能登の復興を応援するため、**ANAやポケモン・ウィズ・ユー財団と連携し、のと里山ポケモン・ウィズ・ユー空港**としては、**初めての「空の日フェスティバル」を開催**

→ 航空への理解・関心を高めてもらうことを目的に9月20日を「空の日」として制定され、全国の空港ではイベントを開催

日時

10月11日 (日)・12日 (月・祝)

各日9時30分～16時

会場

・**のと里山ポケモン・ウィズ・ユー空港**
・日本航空学園



▲詳しくはこちら

内容

- | | |
|---------------|------|
| ①ポケモンカイトの観覧 | 当日受付 |
| ②空港のお仕事見学 | 受付終了 |
| ③整備士の話を聞く航空教室 | 受付終了 |
| ④空港滑走路のバスツアー | 当日受付 |
| ⑤オリジナルグラス作り | 当日受付 |

ほか、飲食ブースやステージ企画など盛りだくさん

同日、日本航空学園で、**航空祭**（12日のみ）や**ポケモンわくわくフェスタ**を開催
無料の**シャトルバス**として、「**ポケモンのとめぐりバス**」を空港・航空学園間で運行します



ポケモンカイト



ANA空港お仕事見学



オリジナルグラス作り



空港滑走路バスツアー

※写真はすべてイメージです



ポケモンのとめぐりバス

©Pokemon. ©Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokemonは任天堂・クリーチャー・ゲームフリークの商標です。

空港企画課
076(225)1336

世界農業遺産「能登の里山里海」15周年記念シンポジウム



- ・世界農業遺産「能登の里山里海」の認定**15年**を記念し、**シンポジウム**を開催
- ・「食」を切り口に、生産者や料理人等の営みから「能登の里山里海」の豊かさに触れるとともに、復興のシンボルであるトキとの共生への理解を深める

日時 **11月29日（日）**
13時30分～15時30分

会場 県地場産業振興センター
新館 コンベンションホール

定員 **100人**（事前申し込み・先着順）

イベントの詳細や
お申し込みはこちらから▶
締切：11月15日（日）



内容

- ① **発酵デザイナーによるゲストトーク**
（演題）食べ物の背景を旅する
～能登から見える、自然と人の営み～
- ② **パネルディスカッション**
（テーマ）食卓の向こうにある人々の営みと
能登の里山里海の価値を考える
- ③ 県内高校生・大学生による発表
- ④ いしかわ動物園飼育員に学ぶ**トキとの共生**

トキPRキャラクター「**のとっきー**」との写真撮影、
トキのアイシングクッキーづくり、トキクイズ 等



発酵デザイナー
小倉ヒラク氏



のとっきー